

京林大だより

No.34



絵：卒業生 熊走君

キャップストーン研修でプロの技と心を学ぶ

平成29年9月4日から11月2日までの約2ヶ月間、2年生15人がキャップストーン研修に取り組みました。

キャップストーン研修とは、より実践的な能力の養成と実社会への適応力の向上のため、本校で学び実習を積んできた専門知識や技術を現場で実証する実学実習です。

府内外の林業事業者や製材所、NPO法人等（府内：20、府外：6）の御協力をいただき、測量や伐採、高性能林業機械による搬出作業、更には製材、森林環境教育などの業務に従事しました。

学生にとっては、技術面だけでなく、仕事に対する姿勢など、プロから直接指導をいただく大変貴重な機会となりました。

卒業まで残り約3ヶ月。キャップストーン研修で一回り成長した学生が、京都の、そして全国の森林整備の担い手として、活躍してくれることを期待しています。

後になりましたが、キャップストーン研修に御協力いただいた事業者のみならず、本当にありがとうございました。

グラップルによる仕分け作業



グラップルによる積み込み作業

製材工場での検寸作業



デジタルコンパスによる測量作業



街路樹の剪定作業



受け口の位置など伐木作業の指導を受ける学生



第2回林大祭を開催します

今回は「木と炎の暖かな世界」をテーマに林大生・職員と地域や林業関係者の皆様と親睦や交流をはかりたいと思います。12月3日（日）はお子様にも楽しんでもらえるコーナーも準備いたしますのでご家族お揃いで林業大学校へお越しください。

「林大祭」プログラム

●12月2日（土）13:00～17:00

京林大「木の駅」

あなたの山に残った木、庭の伐採木などまとめて、軽トラック一杯（350kg）分をお持ちください。和知地区限定の商品券と交換します。

●12月3日（日）10:00～15:00

「林大祭」

内容：模擬店、木工体験と販売、チェーンソーアート実演、森のアトラクション、映画鑑賞会、たき火を囲んだ語らいの場など



たき火を囲んで語らい



お餅つき(昨年の林大祭)

今月の授業参観

『林業機械実務1』

この授業では、急斜面の山から木材を搬出するのに欠かせない架線での集材について学びます。

林業・木材製造業労働災害防止協会京都府支部より講師にお越しいただき、架線用集材機の仕組みや、使われるワイヤーロープの結び方等を学習しました。

実習では、集材機についているドラムで、ワイヤーロープを巻き出したり巻き込んだり操作して、山から木材を引っ張り出す方法を学びました。

また、木材を引っ張り出す時に使うワイヤーロープの輪っか（アイ）の作り方を2種類練習しました。不器用な学生も講師に教わりなんとか完成させることができました。



ワイヤースプライス(わっか作り)に取り組む



校長室より

木育フォーラムin京都

校長 只木 良也

「木育」という言葉、聞いたことありますか？それは、平成17年、北海道庁主導で動き出した新教育運動で、平成18年に、閣議決定された「森林林業基本計画」にも市民・児童の木材に対する親しみや木の文化への理解を深めるため、多様な人々が連携・協力して、木材の良さやその利用の意義を学ぶ教育活動、と記載されています。

その活動の一環として、9月に京都で、「木育は地域を紡ぎ、暮らしを創る」というタイトルのフォーラムが開かれました。

その特別講演としての、東京のおもちゃ美術館館長多田千尋氏の「木育は地域を変える」では、「木育」の概略とともに、木の実際効果が

色々で紹介されました。

例えば木材で内装した幼児室では、赤ん坊のごて泣きが減り、パパの滞在時間は長くなるとか、老人ホーム談話室でも、木材内装だと人が寄り易く、寡黙だった人も隣の人たちと会話が進む、などなど。

続くパネルディスカッションでは、森林・木材・「木育」は文化形成に欠くことは出来ないことが、持続可能、もったいない、川上と川下、宗教との連携、などをキーワードに論議され、それを長年手がけてきた京都こそ、「木育」の実際現場、その知恵袋、と纏められました。

翌日は、「木育こども縁日」と称するイベント。木のおもちゃで自由に遊べ、京都特有の子供たちの夏の楽しみ「地蔵盆」の模擬体験などもある「木育キャラバン」が開催されました。

開催場所は、壬生寺。木造の代表選手ともいふべきお寺での開催は全国初とか。

京都らしく・・・。